入間市ゆかりの人物 ～いるまを創った人々～

No.	氏名	時代	生没年	事績	ゆかりの地	（説明）
1	金子 家忠 （かねこ いえただ） 【別名】 金子 十郎 （かねこ じゅうろう）	平安後期～鎌倉	保延4年（1138）～ 建保4年（1216）	武蔵七党の村山党（平氏）に属する。保元の乱・平治の乱で源義朝に従う。平治の乱では、女装した二条天皇が乗る牛車を見破れずに藻壁門を通してしまう場面が有名。源頼朝挙兵の際は、はじめ平氏方として衣笠城（横須賀市）の三浦氏を攻めるが、その後源氏方となり、源範頼・義経に従って源平合戦に参戦する。屋島（香川県）の戦いの際、平氏方と言葉合戦をした場面はよく知られる。	金子氏一族の宝篋印塔 （入間市木蓮寺）	金子氏の菩提寺・瑞泉院（現・廃寺）の旧境内にある。安土桃山～江戸時代前期の形式で、この地に徳川の支配が及んだ頃に、本貫地に一族の先祖供養のために建立したと見られる。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	金子氏にまつわる史跡や資料の写真をパネル展示。
2	加治 家貞 （かじ いえさだ） 【別名】 加治 二郎左衛門入道 （かじ じろうざえもんにゅうどう）	鎌倉	不明～ 元弘3年（1333）	鎌倉時代末期に活躍した武蔵武士。武蔵七党の丹党（丹治氏）に属する。鎌倉幕府の御家人と北条得宗家の御内人を兼ねた。元弘元年10月には幕府軍として楠木正成の赤坂城（大阪府）攻めに参戦し、元弘3年5月の新田義貞の鎌倉攻めに際しては、幕府軍の副将として小手指ヶ原（所沢市）・久米川（東村山市）・分倍河原（府中市）で戦った。同年5月22日、幕府滅亡に殉じたとされる。	円照寺 （入間市野田158）	加治家貞（法名：道峯禅門）を供養する元弘3年5月22日銘の胎蔵界大日三尊種子板碑（国指定重要文化財）がある。偈に無学祖元の『臨剣頌』を刻むことでも有名（非公開）。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	板碑のレプリカをはじめ加治氏にまつわる史跡を展示。
3	村野 盛政 （むらの もりまさ）	江戸後期	明和元年（1764）～ 文政2年（1819）	江戸後期、養蚕の振興に尽力し、狭山茶業を宮寺の地に復興した先駆者の一人。また小野派一刀流中西派の剣客で、俳人。俳号を瓢志と称した。	出雲祝神社 （入間市宮寺1-1）	社地内に盛政らの尽力による狭山茶業復興の経緯を記した「重闢茶場碑」（市指定文化財）がある。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	常設展示室「茶の展示室」に盛政らの事跡を含む狭山茶の歴史を紹介するコーナーがある。
4	吉川 温恭 （よしかわ よしずみ）	江戸後期	明和4年（1767）～ 弘化3年（1846）	江戸後期、狭山茶業を宮寺の地に復興した先駆者の一人。宮大工の棟梁でもあった。	出雲祝神社 （入間市宮寺1-1） 西久保観音堂 （入間市宮寺1544）	出雲祝神社地内に温恭らの尽力による狭山茶業復興の経緯を記した「重闢茶場碑」（市指定文化財）、西久保観音堂地内に墓碑がある。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	常設展示室「茶の展示室」に温恭らの事跡を含む狭山茶の歴史を紹介するコーナーがある。
5	八木 謙斎 （やぎ けんさい） 【別名】 沙月亭（さげつてい） 勝良（かつら） 偃松斎（えんしょうさい）	江戸後期～明治	寛政6年（1794）～ 明治14年（1881）	川越唐桟と呼ばれる綿織物を発明したと言われ、その後、双子織布を始めたと言われる。また、織物業を指導して地域の産業を盛んにした。また明治になると神主をつとめながら、歌、書、華道の分野にも優れた才能を発揮した。	龍園寺墓地 （入間市新久717）	謙斎の墓碑で、双子織をはじめたことが刻まれており、「雪の雁　たった処に　もどりけり」と謙斎の辞世句が刻まれている。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	常設展示室「入間の歴史」に野田双子織を紹介するコーナーがあるほか、「野田双子織研究会」が野田双子織の復元・普及活動を行っている。
6	吉川 緑峰 （よしかわ りょくほう）	江戸後期～明治	文化5年（1808）～ 明治17年（1884）	江戸時代末期の絵師、茶業功労者。狭山茶業復興の功労者である吉川温恭の子。父温恭の後を受けて、茶業の振興につとめ、一方絵師として多くの作品（温恭画像など）を残した。市内黒須の蓮花院観音堂、瑞穂町福正寺観音堂にも天井絵を残している。	蓮華院 （入間市春日町2-9-1）	緑峰の筆による観音堂鏡天井飛竜図がある。
					清泰寺 （入間市宮寺609）	緑峰の筆による阿弥陀堂天井の飛竜図がある。
					緑峰碑 （入間市宮寺1528）	緑峰の事績を記している。
7	浅見 野井 （あさみ やせい） 【別名】 紙葉軒 （しようけん）	江戸後期～明治	文化11年（1814）～ 明治9年（1876）	江戸後期の俳諧作者。音好、紙葉軒、逃水庵と号す。松梅亭商人と号し和歌を学んだ後、俳諧の道に入った。13年間全国各地を漂泊して文久・元治年間頃（1861から65）江戸に戻り、草庵を結んだ。父の死を契機に帰郷、地元の知識人達を指導、門人には、増田俄友、桑田静湖、繁田玉山、吉田一理喜らがいる。主な著書『陽炎集』、『したもえ集』	三輪神社 （入間市中神345）	入口に、明治41年に建てられた野井筆跡の句碑「打ちつけに 東をのそむ 岡見哉」がある。
8	増田 三平 （ますだ さんぺい）	江戸後期～明治	文政3年（1820）～ 明治18年（1885）	江戸末期から明治初期にかけて酒造業と製茶業を経営し、狭山会社の重役を務めた実業家。製茶業では三平蒸篭を発明し、第一回内閣勧業博覧会に出品して入賞した。三平の墓石は、三平蒸篭の形をしており、墓標脇に三平が狭山茶振興に努めたことが記されている。	入間市博物館 （入間市二本木100）	常設展示室「茶の世界」に、増田三平発明による「三平蒸篭」の実物が展示されているほか、三平の関わった狭山会社について紹介されている。
9	石川 幾太郎 （いしかわ いくたろう）	明治～昭和初期	安政2年（1855）～ 昭和9年（1934）	日本有数の製糸工場をつくりあげた企業家。また地域の産業の発展にも貢献し、緑綬褒章、紺綬褒章を受章した。会社の最盛期に幾太郎によって建てられた迎賓館の西洋館と豊岡教会は今も残っている。	国登録有形文化財 旧石川組製糸西洋館 （入間市河原町13-13）	石川組製糸の迎賓館として、大正10年（1921）頃に建設された。設計は室岡惣七、施工は関根平蔵。洋風建築だが、随所に和風のデザイン・意匠が見られる。毎年3～11月に一般公開されている（公開日程は入間市ホームページ等を参照）。
					武蔵豊岡教会 （入間市河原町8-6）	建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により、1923年（大正12年）に建設された礼拝堂。建築には幾太郎の援助が大きく、当時の石川組製糸の盛況が偲ばれる。現在も日本キリスト教団武蔵豊岡教会の礼拝堂として使用されている。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	常設展示室「入間の歴史」に、石川組製糸について紹介するコーナーがある。
10	粕谷 義三 （かすや ぎぞう） 【別名】 竹堂 （ちくどう）	明治～昭和初期	慶応2年（1866）～ 昭和5年（1930）	藤沢村（現藤沢地区）出身の政治家。アメリカ・ミシガン大学留学時に、在留邦人向けの機関紙を発行。帰国後、扇町屋村の粕谷家の養子になり、埼玉県議会議員に当選。その後、中央政界に進出、衆議院議員に当選12回。大正12年（1923）には、入間市で唯一の議長に就任。党籍を離れた公平な議会運営を行ったことから名議長とうたわれた。大正12年の関東大震災の際には、渋沢栄一と協力して復興に力を発揮した。	入間市市民会館跡地 （入間市豊岡3-10-10） 藤之宮 （藤沢地区センター横）	入間市市民会館の跡地に銅像が、出身地の藤沢地区の藤之宮には胸像が、それぞれ顕彰会により立てられている。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	常設展示室「入間の歴史」に、「入間の人物」として粕谷義三とその事跡について紹介するコーナーがある。

入間市ゆかりの人物 ～いるまを創った人々～

No.	氏名	時代	生没年	事績	ゆかりの地	（説明）
11	繁田 武平 （はんだ ぶへい） 【別名】 翠軒 （すいけん）	明治～昭和前期	慶応3年（1867）～ 昭和15年（1940）	豊岡町（現豊岡地区）の町長・議員として、31年間にわたり町政の発展に尽力した。在職中には、豊岡町は、内務省から第1回全国優良町村に選ばれている。 また、家業の製茶販売業を通じて産業の振興に力を尽くした。さらに公民教育・社会教育の機会をつくるために、豊岡公会堂を建設し、豊岡大学を開いた。また、豊岡保育園を開設し、幼児教育の重要性を自ら実践した。晩年は『翠軒全集』をはじめ、数多くの著書を自ら執筆、出版した。	旧黒須銀行 （入間市宮前町5-33）	武平の父満義により創設された黒須銀行の本店として明治42年に竣工した土蔵造の銀行建築（市指定有形文化財）。通常非公開だが、年に数回特別公開される。
					入間市博物館 （入間市二本木100）	常設展示室「入間の歴史」に、「入間の人物」として繁田武平とその事跡について紹介するコーナーがある。
12	市村 高彦 （いちむら たかひこ）	明治～昭和前期	明治6年（1873）～ 昭和21年（1946）	明治・大正・昭和の37年間にわたり、金子村の村長を務め、村政の発展や教育の充実、産業の育成など、多くの功績を残した。とくに教育を重視し、私財を投じて地元小学校に雨天体操場を建設、村民向けの講座や講演会を開くなど、村の教育文化の活動にも力を注いだ。また、狭山茶業の近代化や販路拡張にも貢献した。	JAいるま野金子支店 （入間市西三ツ木108）	金子地区の人々により、金子村役場（現在はJAいるま金子支店になっている）に立てられた、胸像（作者は朝倉文夫）がある。
13	平岡 仙太郎 （ひらおか せんたろう）	明治～昭和前期	明治26年（1893）～ 昭和14年（1939）	家業の織物業を通じて地域の産業の発展に寄与した。昭和初期にいち早くドイツからレース機械を導入し、さらに専門技師を招いて刺繍レースの生産を始め「平仙レース」の基礎を築いた。また、所沢織物工業組合の発起人となり、理事長の時に仏子染織指導所（建物は現在の文化創造アトリエアミーゴ）を誘致した。	交差点「文化創造アトリエ前」角地 （入間市仏子大字785-1）	平仙レース第二工場（後の仏子整染）跡地（現ヤオコー）に、胸像がある。